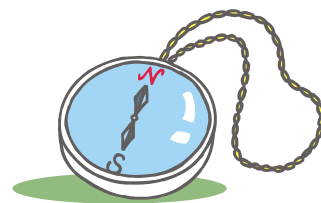


羅 針 盤



第 8 号

令和8年6月1日（月）

◆ 『志（こころざし）』を立てる

学校生活を通じて「主体的に学び続けること」を実現していくためにも、生徒の皆さんには、学校生活の中で何をするのかといった「志（こころざし）」を立ててもらいたいと考えます。今から2500年前に、中国で書かれた古典である「論語（ろんご）」を皆さんは知っているでしょうか。孔子（こうし）がその弟子たちからの質問に答えた内容をまとめた書物で、時代を超えて読み継がれてきたものです。その中で、特に孔子が一番大事にしていたのが「志（こころざし）」です。「吾（わ）れ十有五（じゅうゆうご）にして学（がく）に志（こころざ）す」（私は十五歳のときに、目標を定めて勉強しようと決めた）という有名な一文があります。「よし！〇〇のような偉い人になるぞ！」「何があっても、〇〇をやり遂げてみせるぞ！」と思うこと、それが「志（こころざし）」です。しかも、自分のためではなく、社会のため、人のために自分はこういう人間になって貢献していきたいという決意こそが、「志（こころざし）」なのです。また、孔子は、昨日の自分よりも今日の自分、今日の自分よりも明日の自分がよくなるように「生きたい」と考えました。そして、「社会や人のために、役に立つ人になりたい」と考えたのです。そのためには、「徳（とく）」を積むことが大事であると孔子は考えました。孔子が考えた「徳（とく）」、それは誠意があるということであり、人に信頼されることでもあり、そして、良い行いをしようという気持ちがあるということです。まずは、しっかりと「志（こころざし）」を立て、「徳（とく）」を積み、まっすぐに成長することが大切であるということを説いた書物、それが「論語」です。自分自身が成長していくイメージを持ち、豊かに生きていくための「考える力」を身に付けてほしいと思います。そして、何よりも「大丈夫、自分ならできる！」という気持ちを持ち続け、自分自身が立てた「目標」に向けて、弛（たゆ）まぬ努力を続けることの大切さを感じとれる人であってほしいと願っています。



◆ 問題が解決しない考え方をやめる

京セラの創業者として有名な稲盛和夫さんの口癖は、「私にもできるのだから皆にもできる」でした。でも、社員にとってみれば、起業家として成功した稲盛さんだからこそできたと思わざるを得ない、要するに稲盛さんだからできたと思っている社員が大半でした。しかし、そんな社員の中にもこの言葉の本質を受け止めた人もいて、つまりは、「あの人だからできた」という考え方をやめようと、その考え方ではその時点で学ぼうといった姿勢が止まってしまい、そこからの成長は期待できないと考えた訳です。また、問題が解決しない原因、それは「人のせいにしてしまう」ということでした。「〇〇のせいだ」という言葉は、全ての活動を停止させ、発展させることを止めてしまうと気づいたからです。「人のせいにして問題が解決しますか」というこの問いかけに世界中の誰もが「しない」と答えるのではないのでしょうか。我々はいづれ人のせいにしてしまいがちです。その結果、問題を放置してしまうことさえも。問題を解決すべき糸口を見落とすことのない人へと成長したいものです。